

〔県民局だより〕 和牛の放牧を開始しました

備前県民局 畜産班

瀬戸内市邑久町山手地域で、9月から和牛の放牧を開始しました。

この試みは、放牧牛適性和牛確保対策事業を活用し、耕作放棄地の再生・利用を推進するため、放牧に適した和牛の確保、貸付、譲渡等、地域における和牛放牧の体制を整備するとともに、雑草採食による繁殖経営の安定や新たな和牛放牧経営の担い手確保に資することを目的として実施しました。

今回の放牧は、約80aの耕作放棄地の所有者の方が、年3～4回草刈り



をし、原野にならないように管理されていましたが、休日は放棄地の管理に追われて大変なため、市にもう少し楽に管理ができる方法がないかと問い合わせをされたことが、きっかけとなりました。（放牧前の放棄地）



最初は山羊放牧等棚田保全普及啓発事業で話が進んでいましたが、耕作放棄地の面積が広いので、山羊数頭ではとても対応出来ないため県民局に相談があり、和牛での実施となりました。

放牧牛は、瀬戸内市内の畜産農家の和牛を1頭、放牧になれた和牛を県農林水産総合セ

ンター畜産研究所から1頭と電柵等をお借りし、2頭のペアで雑草が覆い茂る耕作放棄地に放しました。牛2頭で10aを約1週間で綺麗に食べ尽くしてくれますので、今回は約2ヶ月間の放牧を考えています。

耕作放棄地の所有者の方に、今回の放牧について感想をお聴きしたところ、①当初牛ですることに大変不安であった。牛を扱ったことがなく、暴れて脱走し近所に迷惑を掛けるのではないかと心配だった。②生き物だから世話をするのに、手間暇がかかるのではないかと。③病気になったらどうするのか。④放棄地が本当に綺麗になるのか。との不安があったそうです。

しかし、飼ってみると、毎朝餌を少し与える内に牛も人もお互いに慣れてきて、牛に触ることもできだした。日々放棄地が綺麗になっていくことがよくわかる。草刈りのことを考えると、時間も経費も節約できた。

（放牧2週間後）



そして、地域の人たちも牛を気に掛けるようになった。また、憩いの場にもなっているみたいで、良いことだらけで、これこそ一石二鳥だと思っていると云われていました。

現在、牛たちは順調に所有者の方に代わり、耕作放棄地を管理しています。